



7年ぶりの電化厨房体験施設

中川 秀世 一般社団法人 日本エレクトロヒートセンター 理事

北海道の夏は涼しい。そう思って東京からゴルフ旅行で来道した知人に、「東京と変わらないじゃないか」と言われたことがある。北海道の涼しさは、オリンピックのマラソンと競歩会場に札幌が選ばれた理由でもあるが、近年、気候の変化、海洋環境の変化を身近に感じる事が多くなってきた。

北海道には、梅雨前線の影響を受ける本州でいうところの「梅雨」は無いが、6月のライラックが咲く頃に霧雨、小雨の日が多くなる「蝦夷梅雨」と呼ばれる時期がある。この時期以外は、カラリとした気候だったはずだが、気が付けば、6月下旬から真夏日を記録するようになり、7月半ばは晴れ間がなく、曇りと雨を繰り返すような年が増えてきた。庭の野菜の成長を楽しみにしているが、ここ数年は、生育期の天候不順にやきもきしている。

近海で獲れる魚もあきらかに変わってきた。イカ、サンマ、サケの不漁が続くなか、暖流を好むブリの大豊漁のニュースが流れる。北海道民にとっては馴染みの薄い魚であったが、今や、近所のスーパーで、天然ブリの切り身が3枚300円というお手頃価格で売られている。脂がのっていて美味しい。

地球温暖化対策の推進が待ったなしの中、電気事業連合会から2050年カーボンニュートラルの実現に向けた取り組みの基本的な考えと方向性が公表された。

「需要側の取り組み」として、産業、運輸、業務・家庭などあらゆる部門の最大限の電化に向けた創意工夫、サービスの拡充を掲げている。電力業界は国や地方自治体、関係する業界等と協調し、全国足並みをそろえて強力に電化を進めていくことになる。

このような動きの中、北海道電力では、今年、民生分野における電化促進に向けた施設として、「業務用厨房の体験施設」をオープンさせる。また、「オール電化のモデルハウス展示場」を誘地した。

業務用厨房の電化への取り組みに関しては、東日本大震災に伴う諸事情により2014年に札幌市内の電化厨房機器の展示・体験施設を閉館した後、厨房メーカーの施設やホテルなどでの体験・販売イベントの協賛を行ってきた。しかしながら、三相200V電源と給排水設備のある施設は限られており、体験機会が減ったことで、採用を促す最後の決め手に欠けていた。

オープン予定の施設では、調理体験をしていただき、機器情報、使用方法、省エネ関連の多様な情報をお伝えしていくとともに、日本エレクトロヒートセンターで運営する、厨房機器データのオープンデータベース「IoKプラットフォーム」の利用・紹介も考えている。

オール電化のモデルハウス展示場に関しては、広告会社、ハウスメーカー等の協力を得て弊社所有地にオープンする。10区画のモデルハウスでは、テレワークに対応した居住空間や災害に強い住宅、カーボンニュートラルとの親和性をアピールしつつ、太陽光、蓄電池、V2Hを始めとした、最先端の住宅機能・設備を提案する。

本誌9月号が発刊される頃には、オリンピック・パラリンピックが終わっている。北海道では、前述のマラソン・競歩の他、サッカーも行われる。新型コロナウイルス感染拡大が起きることなく、また、期待どおりの涼しさで、大成功していることを祈る。